



佐同教だより

第44回佐賀県人権・同和教育研究大会 分科会

杵島・武雄地区に集い、学校・家庭・地域の

連携について考える

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内
 TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

(写真上・右)
 人権のまちづくりに
 に向けた取り組みの発
 信と交流がなされた
 第5分科会には、地元
 のゆるキャラも登場
 し会場を盛りあげた。
 =北方公民館



10月21日(火) 武雄市・大町町・江北町・白石町の5会場において、第44回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会を佐賀県教育委員会と佐同教が主催して開催しました。
 分科会は旧教育事務所単位の持ち回りで開催しており、今大会は旧杵西教育事務所管内の伊万里市・有田町にも協力していただき、開催に至りました。
 当日は、学校教育・社会教育関係者をはじめ、PTAや地元住民のみならず千名を超える参加者がありました。
 「人権教育・啓発・まちづくりをすすめていくために学校・家庭・地域の連携の在り方を明らかにしよう！」の大会テーマのもと、各会場で参加者同士が交流する場も多く設定され、連携の在り方について考える大会となりました。
 来年度の第45回研究大会全体会は8月3日(月)に佐賀市文化会館で、分科会は10月20日(火)に唐津・玄海地区で開催いたします。



研究大会分科会
アラカルト

(写真左)
午後からのグループ協議で部落差別をはじめとするさまざまな差別について考えた第1分科会
＝大町町公民館

「個」と「個」が束ね合わさった
「協働」の取り組みをめざして



(写真右)
小学校・中学校・高等学校におけるそれぞれの人権・部落問題学習の取り組みについての報告がなされた第4分科会
＝福富ゆうあい館



(写真上)
子ども支援・家庭支援について報告・討議がなされた第2分科会は、今大会最多の参加者が集まった＝ふれあい交流センター「ネイブル」



(写真左上下2枚・右)
展示と交流会場では参加団体のみなさんとの交流やゆるキャラも登場。分科会後の総括会では報告者と司会者で振り返りがなされた
＝白石町総合センター



佐同教就学前教育研究大会

自分や友だちを大切にできる

教育・保育の創造を

10月26日(日)に佐賀女子短期大学にて、佐同教就学前教育研究大会を開催しました。

今年度は、9時から13時までの半日の日程で、実践報告と特別講演を企画したところ、佐賀女子短期大学生の参加もあり、県内各地から160名を超える保育所(園)・幼稚園や学校教育・社会教育関係者が集い、充実した大会となりました。

特別講演で就学前教育への思いを語る石木和子さん



基山保育園の三井所節子さん・田中由美さんから「心に寄り添う保育をめざして」ありのままのあなたが大好きの実践報告があり、『保育士がかわれば、子どももかわる』子どもも保護者も保育士もみんなハ



基山保育園の実践報告や石木園長の特別講演について、参加者からもたくさんの質問や意見が出され、就学前教育に関する学びが深まった
＝佐賀女子短期大学

ツピーになる』取り組みが報告されました。また、引き続き行われた長崎市 菜の花保育園 石木和子園長による特別講演「明日を拓く力」はたくましく、心豊かで、よく考える子どもを育てるには、40年あまりの保育経験に基づき、『人間を育てる』実践の紹介がなされ、子どもとの接し方を改めて考えるいい機会となりました。

参加者の感想より

- 初めて就学前教育研究大会に参加しましたが、ものすごく自分の心に響くものばかりで参加して良かったです。(教職員)
- 現状を踏まえての話だったので、分かりやすかった。さまざまな取り組みがされていて勉強になった。(教職員)
- 「気になる子は困った子ではなく、困っている子」という話はよく聞くが、これを保・幼、小・中・高・大すべての先生が意識して、教育実践を行っていくことが大事だと思った。(社会教育)
- 子どもを大切に保育する思いが形にあらわれている話で感動しました。「生活リズム」の大切さ、本当にその通りだと思えます。(社会教育)

県外現地研修会 報告

伊万里市教育委員会
田中 正廣

10月2・3日の2日間「**同教・社会教育部県外現地研修会**」に参加しました。
初日は、大阪市西成区にある**市民交流センター**にて、**部落解放同盟西成支部**長から**まちづくり**にかける思いをお伺いしました。



県外現地研修会に参加した県内各市町の社会教育関係者
＝大阪市民交流センターにしなり

江戸時代の渡辺村(現浪速区)は、西日本の本牛馬の皮の集積地で、皮革の集荷・加工・販売の一大産地として栄えていました。ちなみに大阪環状線芦原橋駅前には、現在も二軒の太鼓販売店があります。

■安心して暮らさせるまちづくり
フィールドワークで案内していただいた市民交流センター界隈は、近代的な都市として整備され、昔の面影を見ることがあります。長年にわたる支部の活動により、マンション建設など住宅の確保とともに、介護や医療など安心して暮らせるまちづくりが進められております。



近代的に整備された市民交流センター周辺の街並み

まちづくりは自らの力という思いを強く感じました。
しかしながら、「西成差別」という言葉に象徴されるように、まだ差別は根強いもの

があります。「釜ヶ崎の暴動が西成のイメージを悪くしている」と言われたように、無知であることや知ろうとしないことが偏見につながり、差別の温床になっていることを痛感しました。

■土地差別の現実を改めて垣間見る
翌日は、大阪人権博物館でさまざまな人権問題について学習致しました。同和問題に関する展示、特に部落史に関する展示内容が充実していると感じました。

今回の西成、浪速における2日間の現地研修で、大都市の中心部にありながら、人口の減少、異常に高い高齢化率(36%)や極端な男女比率(3対2)等から、土地差別の現実を改めて垣間見たような気がします。最後に有意義な研修機会をいただいたことに感謝申し上げます。



大阪人権博物館

大阪人権博物館